

グローバル・スコープ

サッカーワールドカップでの日本代表チームの健闘は日本中を明るくした。ただ、日本チームの技量が世界のトップクラス並みに向上したからだとは結論付けた人は多くはないだろう。勝利したどの試合でも心・技・体、すなわち精神力、技量、体力の三つの要素が相手チームを凌駕したからではないか。特に精神力において格上の相手を負かすという意欲が圧倒的に強かった。

2022. 12. 14
日刊工業新聞
負けた試合の問題は三つの要素のうち「心」が強くはなかったからだと思う。何としてでも「相手を負かす」という強い気持ちが欠けていた。ドイツ、スベ

サッカーW杯での健闘 日本中を明るく



ワールドカップでの代表チームの健闘は日本に明るい話題をもたらした

インに比べればコスタリカもクロアチアも勝

てない相手ではなかった。PK戦で相手のゴールキーパーに向き合った選手の気持ちに「入らなければ」という弱気が支配したのかもしれないと感じる。

心・技・体＋勇気・愛情 成功の源

私の小学校の卒業文集には最後に「好きな言葉」を書くことになっていた。私が書いたのはまさに「心・技・体」という言葉だった。何故か理由はよく覚えていないが、気力、能力、体力のうち鍛えるべきは気力なのだという京都の公立小学校の教育だったのかもしれない。外交官を志した後も、何度かこの言葉を呪文のように唱え危機を乗り越えてきたような気がする。相手がいる外交交渉で幾度となく先が見えなくなつた。その時思つたのは、心が折れてはならない、気持ちを強く持てばおのずから道は開ける、ということだった。

そういう私の信念はこの数カ月で大きく揺らいだ。大病を患い、難しい外科手術が成功しないと命を永らえることが出来ない、どんなに気持ちを強く持つても体力の衰退を止めることは出来ない、執刀医に命を預けることしか方法はない。

20時間にも及ぶ「感染した腹部大動脈瘤を血管とステントごと取り除き、動脈のバイパスを作る」という複雑な手術である。幸いにして執刀医は私の友人であり、「神の手」として世界に著名な慈恵医大血管外科大木隆生教授だった。

大木さんは、私に手術が成功したのは「技量、経験、勇気、愛情」があったからだと言つ。確かに経験や技

(第2・4水曜日掲



日本総合研究所
国際戦略研究所
特別顧問

田中 均